（公財）中央果実協会
No.379

ニュージーランド産リンゴ、オーストラリア産ブドウ等のアジア向け輸出

FreshPlaza　2025年1月24日

テマタエクスポート社は、ヨーロッパ、北米、中東、インドに青果物を供給しており、北東アジアと東南アジアに重点を置いている。中国、日本、台湾等の主要市場での長年にわたる関係により、同社は信頼できるサプライヤーとしての地位を確立している。同社は、ニュージーランドとオーストラリアのほか、南米、北米、その他の国からも農産物を調達している。

テマタ社の契約生産者達は今週、通常より7～10日早く最初の果実を収穫し、ニュージーランドのリンゴの収穫期が始まった。

その品種の中に、ニュージーランド国内では有名な生産者であるケビン・ベイリー氏が開発し、テマタ社が独占するニュージーランド産リンゴ品種「a1」がある。果実全体を包む鮮やかな赤色と歯触りの良い甘い果肉で、シーズン初めの代表的なリンゴとして知られている。

テマタ社のCEOであるサラ・マコーマック氏は、「a1は、最も収穫が早い輸出品種の1つになる。ホークスベイ地方の優れた栽培条件により、色の良いきれいな果実が多く収穫された。弊社では数年前からa1リンゴを商業規模で輸出してきたが、栽培面積が増えるにつれて輸出量も増加している。弊社は、植栽面積の上限を100ヘクタールとすることを決定し、2026年までにすべての果樹を植栽する予定である。今後5年間、生産量は毎年増加し、年間約30万箱に達する」と述べている。（以下「　」は同氏の話）

テマタ社のその他の品種はアジア、北米、ヨーロッパに出荷されているが、a1リンゴの主な輸出市場はベトナム、中国、日本である。

ブドウ

テマタ社はまた、オーストラリアとペルーから様々なブドウを輸出している。現在オーストラリアでの収穫が進行中であり、季節の移り変わりに合わせて、供給元をペルー産からオーストラリア産に移行する過程にある。

「日本への全面的な市場参入（オーストラリア産ブドウの品種の限定解除）が承認され、弊社は今年初めて幅広いブドウ品種を日本に提供できることを嬉しく思う。」

同社は独占的なブドウ品種は栽培していないが、主要な栽培パートナーは、品質の高い品種を幅広く提供している。今シーズン、サンレイシア地区の良好な生育条件により、果実のサイズと外観が優れており、当たり年が期待されている。

「収穫中の果実の品質は並外れており、今シーズンの全体的な味と品質には自信を持っている。地域全体の出荷量は昨年に比べて増加しており、昨シーズンの厳しい状況の後で、業界から歓迎されるだろう。」

テマタ社はアジア全域のいくつかの市場にブドウを出荷しており、日本が最大の市場である。

物流

過去数年間、輸送と物流は、主に輸送の遅延と機材の不足による課題に直面していた。改善が進められている一方で、今年に入っても一部の課題が残ると予想されている。

「すべての主要な輸送パートナーがこれらの問題に対処するため懸命に取り組んでいることを弊社は承知している。一部の輸送業者は遅延を減らすためにスケジュールを調整しているが、その結果、一部の目的地への輸送手段の選択肢が限られ、費用が上昇している。」

「障害はあるものの、弊社のチームは世界中の取引先に高品質な農産物を提供することに引き続き取り組む。今後も輸送パートナーとの強力な関係を活用して、タイムリーで信頼性の高い輸送を確保する。」

執筆者：ニコラ・マクレガー

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）